

トマトづくりの現場に寄り添う

～猛暑に負けない産地づくり～

いわき農林事務所農業振興普及部

背景・ねらい

(1) 背景

- ・いわき地域は、トマトの作付面積が約21haを誇り、檜葉町を含めて冬春トマトの指定産地に指定
- ・近年は出荷量が減少し、特に秋口の減収が大きい原因
 - ①高温により花落ちや裂果が発生
 - ②高温によりコナジラミ類が多発し、トマト黄化葉巻病が発生

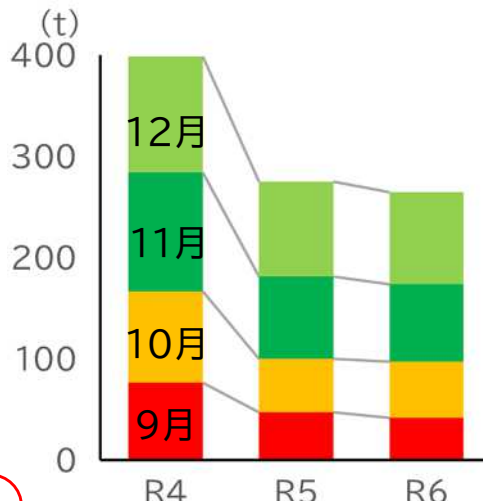


図1 過去3年の年内出荷量 (JA全農福島)

(2) ねらい

- ・年内の出荷量の確保
 - ⇒①花落ち、裂果対策
 - ②トマト黄化葉巻病対策

目指せ！

猛暑でも安定した
周年トマトの産地



活動内容

活動対象 サンシャイントマト出荷協議会、
JA福島さくらハウス部会菊田支部

(1) 各温室に応じた昇温抑制対策

- 各温室の環境測定データ等に基づき、
対策を提案、調査研究で効果の有無を検証

高温障害の
発生を減らし、
収量増を目指す！

Q：実施可能な昇温抑制対策とは？

A：ヒートポンプを活用した夜間冷房
⇒夜間料金を活用し、ランニングコストを抑えながら
草勢を向上させ、花落ちや裂果を軽減させる

(2) トマト黄化葉巻病耐病性品種の導入 理解促進や合意形成を実施

↓
トマト黄化葉巻病耐病性品種
説明会を開催

↓
巡回時、生産者と導入する耐病性品種の検討
導入後は、種苗メーカーとともに巡回指導実施

連携・合意形成



提案



活動成果

(1) 昇温抑制対策

- 遮熱剤の塗布が一般化(1戸→4戸)
- 暖房機を活用した、24時間送風を実施
- ヒートポンプを活用した夜間冷房を実施
⇒ 高温の影響が出た段が減少

【R5・6年:3段目まで→R7年:1段目まで】

(2) トマト黄化葉巻病対策技術

- サンシャイトマト出荷協議会
すべての生産者が耐病性品種を導入
(0戸→5戸)
- JAハウス部会菊田支部
トマト黄化葉巻病への関心が高まる
⇒ 耐病性品種導入の検討会開催予定

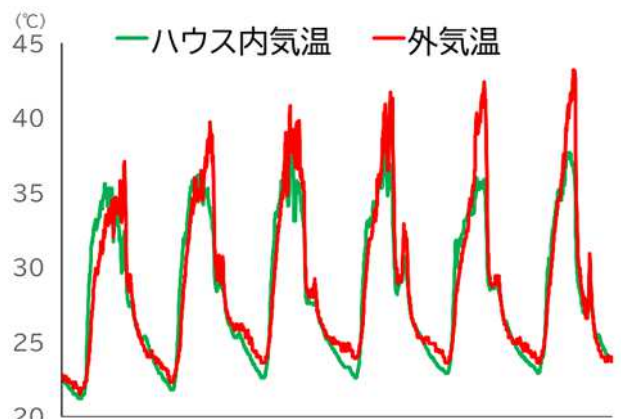


図2 7/20~25のハウス内外の気温の推移

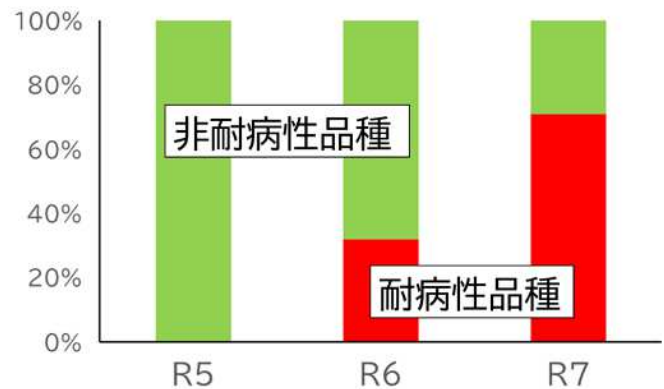


図3 耐病性品種の導入率

今後の活動・方向性

(1) 昇温抑制対策について

- 指導会等を通じた、夜間冷房の普及
- 対策実施時期の検討による1段目の裂果抑制

(2) トマト黄化葉巻病対策について

- 耐病性品種導入率100%を目指す
⇒ 耐病性品種の導入による収量、品質への影響を把握
- 耐病性品種の特性に応じた栽培管理の実施
⇒ 種苗メーカーを招いて、生育ステージ毎の栽培管理のポイントをつかむ

目指すは、高値の年内の出荷量増大！



図4 栽培の様子



図5 地元スーパーで販売されるいわき市産トマト



図6 売り場の様子